



東京衛生学園専門学校（リハビリテーション科）

〔所在地〕 〒143 東京都大田区大森北2-4-2
 〔電話〕 03-763-6621
 〔学科〕 理学療法学科
 〔学生数〕 80名
 〔修業年限〕 3年（昼間）
 〔募集人員〕 20名
 〔入試倍率〕 昭和55年度5.3倍

沿革

昭和28年4月、東京衛生学園創立以来、小田原衛生学園、湯河原衛生学園を開校し、いずれも厚生大臣指定校として、東京および湘南地区のチェーン校として優秀な医療人を送り出している。また、昭和48年以降学校

本リハビリテーション科は、昭和54年4月に新設され、既存の鍼灸科、看護科と併せ、約800名の生徒を擁している。

本校の校是は、「われらの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」であり、単なる技術者養成の場ではなく、医療人としての人格形成をするべく、学生教務一体となって取り組んでいる。

学園生活は、学園と共に学生達が積極的に学友会を結成し、種々の学習活動、体育活動を行っていく中で、自主性、協調性、義務先行の態度を養う。

本校の特色は、創立者故後藤真一先生が、日本のリハビリテーションのパイオニアの一人として活躍した精神を継承し、東洋医学も必須科目に取り入れ視野の広さを養



「リハビリテーション」

砂原茂一著

本年は国際障害者年。折しもわが国のリハビリテーション医学界の大御所であられ、わが国初めてのPT・OT養成校の創設者でもあられる砂原茂一先生著「リハビリテーション」が出版された。先生の著書は、従来、専門家を対象とされたものが多かったが、今回は一般の啓蒙書の形をとっており、200ページ余りの新書版本であるが長年に亘る先生の思索が凝縮されており、われわれリハビリテーションに携わる者にとっても待望の書であった。

内容構成は、「病気から障害へ」、「リハビリテーションということ」、「思想と技術の出会い」、「技術の体系」、「リハビリテーションの流れ」、「人権の視座から」、「問い返される理念」などからなっており、何れの章も示唆に富む。

新しいリハビリテーションの動きとして米国の重度障害者の中から起きたIL運動（自立生活）についても述べておられる。依存性の強い日本の障害者の方向が果してIL運動のようなものへと展開していくかはともかくとして、ここ十数年、tax payer となり得る障害者のケ

アが優先して進められてきたが、なすこと（doing）の価値から、あること（being in becoming）への価値観の静かな紹介の中で、重度障害者や精神薄弱者への取り組みについて再考の警鐘をされている。職業主義、技術主義をとった米国型とスウェーデンなど北欧福祉型の模倣とは別に、われわれには日本型の創出という時代的責務があると説かれ、リハビリテーションとは何であるか、何であるべきかと問うことは、医学・医療とは何であるか、ひいては人間とは何であるかを問うことになることと結ばれており、読み終えて反省と勇気を与えられる。

本書をもとにして、医師・PT・OTなどが相寄り患者も含めて抄読が、全国津々浦々で活発に展開され、先生の説かれる新しいリハビリテーションの充実につながっていくことが期待される。

私にとってはもちろん、座右の書であるが、リハビリテーションに携わる者にとって必読の書である。

（新書版、頁217、岩波書店、¥380、1980）

（神奈川県総合リハビリテーションセンター
理学療法士 田口 順子）